

## No.83 タデウス・ミスロウスキー —無題—

Tadeusz Myslowski

北川フラムさんのコラム / 1998 (平成 10) 年 5 月 15 日付 立川市市報記事より

ミスロウスキーが初めてアメリカはニューヨークのマンハッタンに行ったとき、その都市がモザイク模様のなかに埋め込まれていたことに感動したという。

その都市のモザイク模様を、写真図面を元に単純化し、整理していったかたちは、実に単純なものになっていった。

その単純なかたちが、彼の美術活動の最小の単位なのである。

そして、今また逆に、その単純なかたちの組み合わせが、いろいろに変化し、展開していく。おのれの感動や思想の凝縮したものには強固な信念が宿っている。その作家の出发点からは想像の翼はいくらでも広がっていく。

ここではその翼が車止めになったのである。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現 : UR 都市機構) 「ミニ通信」より

屋外の都市空間を絵画や彫刻で装飾しようという衝動はたいへん古いものです。

その起源を古代世界に求めることができます。

このようなパブリックアートはたとえば、帝政ローマからイタリアルネッサンスに至る初期都市社会に花開き、文明世界全体に影響を与えました。

私たちの時代にあって、都市デザインは都市の無計画な巨大成長の結果、古典的伝統における理想化されたビジョンからかけ離れたものとなってしまう、個々人が感応できる美的要素の必要性は見過ごされてきました。

しかし最近になって建築の様式と実践において古典的伝統への回帰が起こってきています。

ファーレ立川プロジェクトは実践的な都市計画における生成の際立った例であります。そこでは個人の文化的環境との相互作用が重要な役割を演じています。

更にファーレ立川プロジェクトは世界のアーティストに新しい芸術表現の場を提供することで既存の文化的分極化と民族的障壁を一掃してしまいました。

このことはファーレ立川プロジェクトの最も価値ある点であると、私は強く信じるものです。世界中の他の作家と共にこの革新的で野心的なプロジェクトに貢献できることは私の喜びです。

大成功することを確信しています。